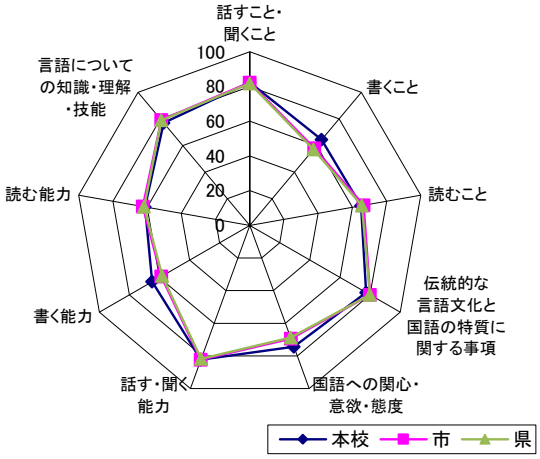
宇都宮市立陽西中学校 第２学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	82.3	82.3	81.8
	書くこと	64.4	58.0	57.2
	読むこと	65.1	66.6	65.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.4	80.0	79.9
観点	国語への関心・意欲・態度	74.3	69.4	68.8
	話す・聞く能力	82.3	82.3	81.8
	書く能力	64.9	58.8	58.1
	読む能力	61.2	62.5	61.7
	言語についての知識・理解・技能	77.1	79.2	79.1



★指導の工夫と改善

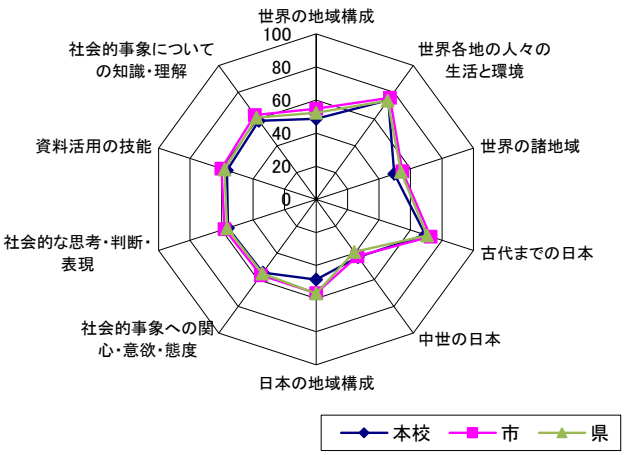
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は，県の平均を0.5ポイント上回り，市の平均とは同じであった。 ○「聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取る」設問の正答率は，3.5ポイント市の平均より高かった。 ●「話の内容を正確に聞き取る」設問の正答率は，市の平均より3ポイント低かった。	・声の大きさや速さなどの話す技能の向上に継続して努めるとともに，構成や表現を工夫して分かりやすく伝えたり，印象的に伝えたりする技能を高める指導を積極的に行う。 ・普段から，話し手の意図を正確に聞き取れるよう注意しながら聞くことを心がけさせる。
書くこと	平均正答率は，県の平均より7.2ポイント，市の平均より6.4ポイント上回った。 ○記述の問題は，すべて市の平均を上回っていた。特に「指定された文字数で書く」との設問では，14ポイント，「自分の考えを明確にして書く」との設問では，14.9ポイント市の平均を上回った。	・今後も，自分の立場や根拠をはっきりさせながら書く学習の機会を多く設け，内容を明確にして書く力を身に付けさせる。 ・授業の中で，様々な形式（400字以上の作文や文字数指定の短文など）での書き方に慣れさせたり，優れた文章を読んだりすることで，書く力の素養をつける。 ・教科書を読む際に文章の書き方の工夫（表現の特徴）を捉えさせ、自分が文章を書く際に生かすように指導する。
読むこと	平均正答率は，県の平均より0.5ポイント，市の平均より1.5ポイント下回った。 ○文学作品で「登場人物の心情の変化をとらえる」設問では，4.1ポイント市の平均を上回った。 ●説明文で「文章の展開をとらえて，その内容を整理する」との設問では，4ポイント下回り，文章の展開を捉える問題に課題がある。	・授業の中で登場人物の心情をとらえるポイントなどを押さえる学習を繰り返し，心情を的確にとらえ表現できるよう指導していく。 ・説明的文章においては，要点をまとめたり構成を捉えたりする学習を通して，筆者の主張や論の展開を読み取る学習を継続していく。その際，指示語や接続する語に注意させ，正確に要旨を捉える力を身につけさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は，県の平均より2.5ポイント，市の平均より2.6ポイント下回った。 ●「小学校で学習した漢字の書き」の設問では，市の平均を最大11.2ポイント下回った。 ●「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す」「単語」「文節の関係」などの設問では，市の平均とほぼ同等の正答率だったが，「故事成語の理解」の設問では，市の平均を3ポイント下回り，言語事項の理解について課題がある。	・日々の漢字テストや授業ででてきた漢字の指導を継続的に行い，漢字を確実に読み書きできるよう習熟を深める。 ・文法や語句に関する問題は，学年をまたいで繰り返し復習することで，知識を定着させていく。また，古典の音読活動を充実させ，歴史的仮名遣いへの理解を深めさせる。 ・AIドリル（タブレットでの学習）や「国語便覧」（資料集）などを用い，繰り返しミニテストを行うなどして，言語事項についての理解を深めさせる。

宇都宮市立陽西中学校 第２学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	48.6	54.7	52.3
	世界各地の人々の生活と環境	74.1	75.9	73.7
	世界の諸地域	49.7	54.8	53.9
	古代までの日本	69.5	72.7	70.5
	中世の日本	43.2	42.4	39.3
	日本の地域構成	48.5	56.7	56.9
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	54.7	56.7	55.3
	社会的な思考・判断・表現	55.9	58.1	56.4
	資料活用の技能	56.6	60.1	58.2
	社会的事象についての知識・理解	58.7	62.9	61.1



★指導の工夫と改善

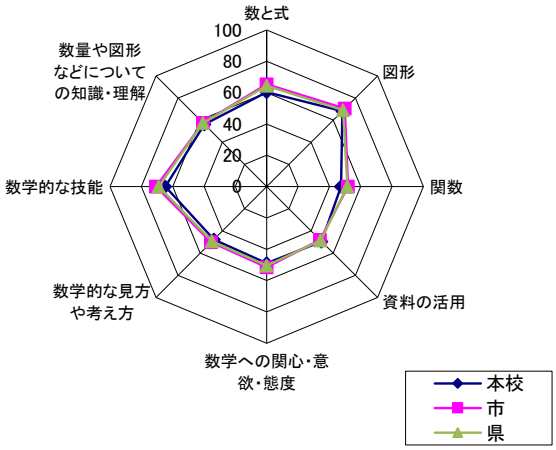
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	平均正答率は県の平均を3.7ポイント，市の平均を6.1ポイント下回っている。 ●世界の地域区分の問題の正答率が市の平均より1.9ポイント低かった。 ●方位を読み取るために適切な正距方位図法を選択し，それをもとに判断する問題の正答率が市の平均より4.9ポイント低く，資料活用の技能に問題がある。	・地図中の緯度と経度の読み取りや，地図の特色を読み取る問題など，知識をもとに資料と結びつける問題に課題が見られる。そのため，地図帳や資料集を活用し，視覚的に理解を深められるようにする。
世界各地の人々の生活と環境	平均正答率は，県の平均を0.4ポイント上回っており，市の平均を1.8ポイント下回っている。 ●冷帯気候の人々の生活についての問題の正答率が，市の平均より2.6ポイント低かった。 ●乾燥した地域における生活の様子について自然環境と関連づけて考える問題の正答率が市の平均より1.9ポイント低かった。	・世界各地に住む人々の衣食住について，写真資料からどんな特徴があるのか読み取りをする活動や，知識をもとに気候と人々との生活を結びつけて考える活動を授業に取り入れる。
世界の諸地域	平均正答率は，県の平均を4.2ポイント下回っており，市の平均を5.1ポイント下回っている。 ●アジア州についての問題の正答率が市の平均よりも，9.6ポイント低かった。 ●オーストラリアにおける貿易相手国の変化を歴史と関連づけて判断する問題の正答率が市の平均より12.5ポイント低い。	・歴史分野と地理分野を関連させて，知識をもとに資料を結びつける力を育成するために，複数の資料を比較したり，相互の関連性を考えるような活動を授業の中で意識的に取り入れていく。
古代までの日本	平均正答率は，県の平均を1ポイント，市の平均を3.2ポイント下回っている。 ○縄文時代に使用されていた道具を写真から選ぶ問題の正答率が市の平均より3.8ポイント高かった。 ●時代の分け方，考え方について西暦と世紀の表し方についての問題の正答率が市の平均より10.2ポイント低かった。	・授業内で，年代を取り扱う際に生徒に西暦と世紀の表し方を確認し，知識の定着に努める。 ・小テストや単元末テスト等を通して知識の定着を図る。
中世の日本	平均正答率は，県平均を3.9ポイント，市の平均を0.8ポイント上回っている。 ○戦国大名による支配について，資料をもとに判断する問題の正答率が市の平均を4.6ポイント上回った。 ●御恩と奉公の関係と，承久の乱の後の鎌倉幕府の支配の変化についての問題の正答率が市の平均より1.4ポイント低かった。	・実際に起こった出来事の後の社会の変化について，自分の言葉で表現する取り組みを授業内で積極的に取り入れ，自分の言葉で表現できるようにする。 ・ビデオ教材や史料など視覚教材を使用して，知識をもとに歴史上の時代の変化をわかりやすく生徒に示す。
日本の地域構成	平均正答率は，県平均を8.4ポイント，市の平均を8.2ポイント下回っている。 ●排他的経済水域の面積と国土面積から読み取れる特徴について，複数の資料をもとに判断する問題の正答率が市の平均より7.3ポイント低かった。 ●日本の標準時子午線について，地図を用いて判断する問題の正答率が市の平均より11.6ポイント低かった。	・地理の授業内で積極的に白地図などの地図資料を用いて，日本の地理的特色を視覚的に捉える取り組みを行う。 ・地球上における日本の位置について，領域や経度など覚えるべき値を繰り返し復習し，定着させる。

宇都宮市立陽西中学校 第２学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	60.3	65.4	64.4
	図形	68.3	70.5	69.0
	関数	47.4	51.9	51.5
	資料の活用	49.5	48.1	48.6
観点	数学への関心・意欲・態度	48.9	51.5	50.4
	数学的な見方や考え方	47.7	50.2	49.4
	数学的な技能	64.7	70.6	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	56.2	57.5	57.4



★指導の工夫と改善

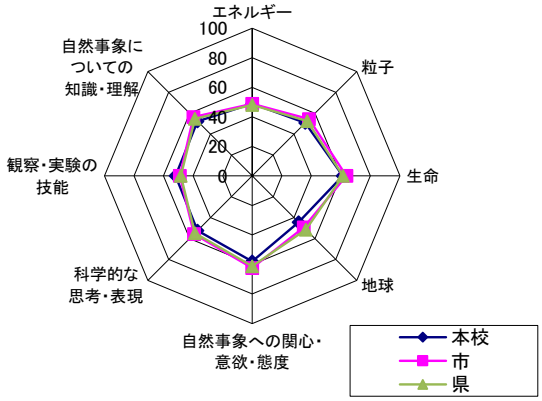
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は県平均を4.1ポイント，市の平均を5.1ポイント下回っている。 ○「与えられた文章題を，1元1次方程式を解いて解決し，兄が弟に追いつく時間を求める」設問の正答率は，県の正答率を1.0ポイント上回った。 ●「絶対値について理解している」設問では，県の正答率を9.8ポイント下回った。	・基礎的な計算問題での計算ミスが多く見られた。計算技能の向上のため，授業開始時に基礎的な計算問題の復習に取り組む時間を設ける。 ・AIドリルを活用し，計算力の向上を目指す。
図形	平均正答率は県平均を0.7ポイント，市の平均を2.2ポイント下回っている。 ○「底面積と高さが等しい円錐と円柱の体積の関係を理解している」設問の正答率は，県の正答率を1.3ポイント上回った。 ●「おうぎ形の面積を求める」設問の正答率は，県の正答率を5.4ポイント下回った。	・この分野では，多くの言葉を定義していくので，既習事項の確認を丁寧に行うことで，全体的なレベルアップを図っていく。 ・合同な図形の中で，証明問題に取り組むことになるので，デジタル教科書を利用して，ことばの定義だけでなく，ことばが示す関係を図の中でもとらえることができるように指導をしていく。
関数	平均正答率は県平均を4.1ポイント，市の平均を4.5ポイント下回っている。 ●「グラフを読み取り，速さを求めることができる」設問では，県の正答率を7.2ポイント下回った。	・比例・反比例の分野は，関数の学習の中で，２年生で1次関数，３年生で2乗に比例する関数と系統的に学習する非常に大切な領域なので，比例・反比例の内容を復習しながら1次関数の学習に取り組ませる。 ・表，式，グラフなどの基本的な事項についてのつながりを再確認し，数学的に説明する問題や与えられた式から情報を読みとるような問題に多く取り組ませることで，実力アップを図る。
資料の活用	平均正答率は県の平均を0.9ポイント，市の平均を1.4ポイント上回っている。 ○「最頻値について理解し，正しい表を選ぶことができる」設問では，県の正答率を4.7ポイント上回った。 ●「35分ぐらい読書をしている生徒が多いという考えが適切ではない理由を，ヒストグラムの特徴から説明することができる」設問では，県の正答率を5.6ポイント下回った。また，この設問では，無解答の割合も高かった。	・この分野の基礎・基本については，おおむね満足のいく状況である。 ・今後は，既習事項を確認することで底上げを図るとともに，２つことがらを比較するような資料を用意し，個人活動，グループ活動，全体での話し合い活動へと段階的に発展させる展開を行うことで，比較検討の仕方を身に付けさせるとともに，自分の考えを適切に相手に伝える練習をしていく。

宇都宮市立陽西中学校 第２学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	49.0	48.8	48.1
	粒子	50.8	54.4	52.6
	生命	61.3	63.7	61.5
	地球	44.4	49.4	51.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	57.9	62.3	61.1
	科学的な思考・表現	52.3	55.7	54.8
	観察・実験の技能	51.9	49.0	48.3
	自然事象についての知識・理解	52.3	56.3	54.8



★指導の工夫と改善

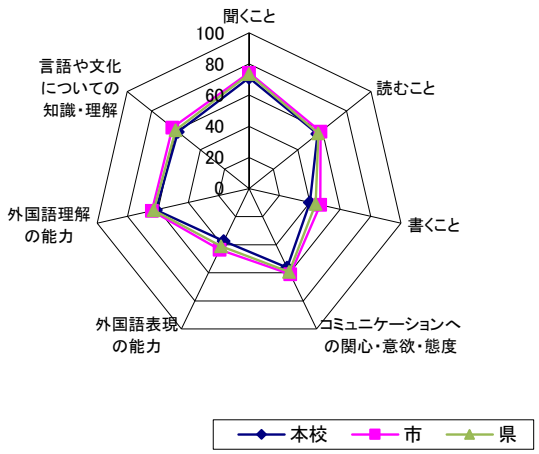
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は，県の平均を0.9ポイント，市の平均を0.2ポイント上回った。 ○おもりにはたらく重力とばねののびの関係をグラフで表す問題では，県の平均を21.9ポイント上回る正答率であった。 ●光源から出た道すじを作図で表す問題では，県の平均を5.3ポイント下回り，光の性質の理解に課題が見られる。	・今後も視覚的に理解できる現象は図示することで，規則性をみつける力を育成していく。このことは，２年生の電流や3年生の運動の学習でも役立つことが期待できる。 ・オームの法則や位置エネルギー等，課題をもとに実験を行い，結果から考察する探究の流れにより，規則性を見つけ，その法則を使いこなす力を育てる。
粒子	平均正答率は，県の平均を1.8ポイント，市の平均を3.6ポイント下回った。 ○グラフから沸騰し始めた時間を読み取る問題では，県の平均を2.4ポイント上回る正答率であった。 ●体積を求め，密度を求めることで金属を特定する問題では，県の平均を7.8ポイント下回り，計算問題に課題が見られる。	・計算問題では，公式が分かっていても使い方に課題が見られるので，問題演習をとり入れる授業展開にしていく。 ・2・3年生の化学変化では、物質の変化をモデル図を使い言葉で説明することや化学変化を式で表す力を育てる。 ・実験器具の使い方を丁寧に説明して，器具を正確に使いこなせる知識を育てたうえで，実践的な場の設定を行い，技能を身に付けさせる。
生命	平均正答率は，県の平均を0.2ポイント，市の平均を2.4ポイント下回った。 ○軟体動物を指摘する問題では，県の平均を5.0ポイント上回る正答率であった。 ●シダ植物とコケ植物のちがいの問題では，県の平均を6.0ポイント下回り，植物の体のつくりについての知識不足が見られる。	・植物分野，動物分野ともに知識の積み上げができている生徒とそうでない生徒がいる。生物の体のつくりやはたらき等，探究し観察・実験を行っていくとともに，基礎的・基本的な内容を丁寧に説明していく。復習を行うことで知識を定着させていく。
地球	平均正答率は，県の平均を7.0ポイン，ト市の平均を5.0ポイント下回った。 ●火山岩のでき方を説明する問題では，県の平均を7.6ポイント下回り，火山岩についての知識不足が見られる。	・身近にあるものを生徒の手に取らせることで，自分が住んでいる場所や地域の成り立ちなど，地質に関する事象への関心を高め，知識を活用する場を設定していく。 ・季節や天気の移り変わり，星の動きについての探究心を大切にしていく。

宇都宮市立陽西中学校 第２学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	71.1	74.4	73.5
	読むこと	56.2	58.7	56.9
	書くこと	40.0	46.8	43.9
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	56.3	61.0	59.4
	外国語表現の能力	37.3	43.5	41.1
	外国語理解の能力	61.3	64.0	62.8
	言語や文化についての知識・理解	58.4	62.9	60.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は，県の平均を3.3ポイント，市の平均を2.4ポイント下回っている。 ○絵を適切に表している英文を聞き取ったり，対話の内容を聞き取り，資料をもとに英語で答える問題は，市の平均とほぼ同じかやや高い正答率である。 ●対話の内容を聞き取り，適切に応答する問題では，市の平均を5ポイント以上下回っており，課題が見られる。	・様々な問題形式に対応できるようにするため，適切にメモを取りながら英文を聞く練習をより多く取り入れていく。 ・英語を英語のまま理解することのできる耳を育てるため，普段の授業で英語を聞く機会を十分に確保し，音読練習も強化することで，相乗効果が図れるような指導を工夫する。
読むこと	平均正答率は，県の平均を2.5ポイント，市の平均を0.7ポイント下回っている。 ○語形・語法の知識・理解を問う問題では，市の平均とほぼ同じか高い正答率である。また，長文の内容を把握する問題では，市の平均を5ポイント以上上回る問題もある。 ●語彙の知識や理解を問う問題で，市の平均を5.9ポイント下回っており課題が見られる。	・今後も，教科書の本文読解を通して，絵や映像を参考にしながら，単語の意味を推測し，概要をつかむことができるような指導を工夫し，継続していく。
書くこと	平均正答率は県の平均を6.8ポイント，市の平均を3.9ポイント下回っている。 ○場面に応じて書く英作文や，情報に基づいて書く英作文においては，市の平均をやや上回っている問題もある。 ●3文以上の英作文を書く問題において，市の平均を10ポイント以上下回っており，課題が見られる。	・自分の力で英文を構成し，まとまりのある文章を作る力を育てるため，習った文法を使って表現する機会を，なるべく多く授業の中で確保する。 ・生徒が書いた英文をALTに添削してもらう機会を多く設け，生徒自身が表現したいことについて，英語での正確な表現力を身に付けられるようにする。

宇都宮市立陽西中学校 第２学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「毎日の生活が充実している」と回答した生徒の割合は57.7%であり，市56.5%や県55.4%の平均より高い。日々の生活の中に小さいことでも楽しめる前向きな姿勢がうかがえ，これからも大切にしたいと考える。

○「家の人と学校のできごとについて話をしている」については53.8%であり，市平均53.0より0.8%，県平均51.8より2%高い。また，「家の人と将来のことについて話すことがある」という質問においては，44.0%であり，市の41.8%や県の37.3%に比べ，家庭内での会話が比較的あることが考えられ，コミュニケーションが取れている様子がみられる。今後も保護者との連携も図りながら大切にし，教職員も生徒との会話も大切にしたいと考える。

○「授業の中で目標が示されている」の回答は83.5%であり，市75.9%，県80.0と比べ授業での目標を明確にして取り組んでいる夜臼がうかがえる。「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」の回答は本校46.2%，市43.3%県41.8%であり，授業での習慣づけが身についており，今後も継続したいと考える。また，「授業で扱うノートには学習の目標とまとめを書いている」との回答は74.2%であり，市60.3%県63%に比べ，授業に向かう姿勢や授業を重んじる姿勢が身についていると考えられる。基礎学力充実のため授業のねらいを明確化し，振り返りの時間を確保するような生徒の育成を職員全体で共通理解し実施してきたが，今後も実践に努めていきたい。

●「学校の授業時間以外にふだん1日当たりどれくらいの時間，読書をしますか」という質問に「全くしない」という生徒が35.7%いる。これは市の24.2%や県の23.6%に比べて読書習慣が確立されてないことを指していると思われる。「1か月に何冊くらい本を読みますか」との質問に対しては，市・県の平均より高い数値を示しているが，家庭での読書の時間も確保できるよう，指導していきたい。

●「ふだん1日当たりどのくらいの時間，携帯電話やスマートフォンで通話やメール，インターネットをしますか」という質問に「1時間以上2時間以内」と答える生徒が22.5%であり，市18.7%や県17.6%に比べると多い。これは，「家で学校の宿題をしている」が市や県に比べ，25%近く少ないことや，「家で学校の予習をしている」に「はい」と回答した生徒が8.8%であり，市の18.4%や県の15.4%に比べ少ないことにも影響があると思われる。家庭での過ごし方は常に話題にしてきたが，さらに，家庭学習の必要性や時間の使い方について粘り強く提案していきたいと考える。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本の確実な定着	・数学を中心に希望者を募り，平日放課後や土曜日，夏季休業中に自習中心の「学習サポート」の時間を設け，基礎学力が不十分な生徒の個別指導を行う。	・数学では，「正の数・負の数」や「文字式」の計算，「比例・反比例」の式の作成やグラフの読み取りにおいて，県の正答率を下回っている。 ・「図形」や「資料の活用」の領域では，県の平均を上回っているものもあり，少しずつ指導の成果が表れていると思われる。
「わかる授業」の展開，授業力の向上	・授業の学びのサイクル「つかむ」「学び合う」「まとめる」「振り返る」を着実に行う。特に「本時のねらい」と「本時のまとめ」の掲示用カードを各教室に配置し，生徒にわかりやすく示せるようにする。	・「授業の中で，目標（めあて・ねらい）が示されている」「授業の最後に，振り返る活動をよく行っている」「授業で使うノートには学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている」の各項目は，すべて市・県の肯定的回答を上回っている。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
家庭学習の習慣化	・「家庭学習の手引き」の配付	・年度初めに，陽西地域学校園で作成した「家庭学習の手引き」をもとに，家庭学習の取組について，様々な場面で指導を行い，家庭学習の習慣化を図る。また，「学習だより」や保護者会等で，家庭学習への積極的な取組を呼びかけていく。
	・「自主学習のたね」ワークシートの配備と更新ボードの設置	・各教科で自主学習として使用できるプリント等を準備し，生徒が自由に持ち帰れるようにする。また，随時新しい内容（プリント）に更新したことを知らせるボードを設置し，自主学習への取組を促す。
ICT機器の活用	・「PCの日」を設け，朝の10分間の時間を使い，アンケートや教科の学習など，タブレットに触れる機会を多く作る。	・一人一台クロームブックを使用し，授業中にインターネットで調べたり，問題を解いたり，質問に答えたりなどタブレットの活用回数を増やしていく。さらに授業の中で生徒同士の協働的な学びに積極的に活用するなど使用の幅を広げていく。